

## 日本一大きい交差点・他

JJ1SXA/池

日本一大きい交差点ということで、TV番組で取り上げられました、それは、仙台バイパス六丁目交差点で仙台市若林区大和町5丁目にある、六丁目交差点が5丁目にある、何故と思ったら、六丁目交差点は「六丁の目交差点(ろくちょう・の・め・こうさてん)」と読む。

この交差点は、北東～南西に走る国道4号仙台バイパスに対し、西側から県道137号線(荒浜原町線)、東側から県道23号線(仙台塩釜線)がX字型に接続する交差点だ、県道23号線は仙台東部道路(自動車専用道路)の仙台東インターチェンジへ通じている。



左折 直進 直進 直進 右折 右折 右折



交差点内の車線を数えると、38あり、左折車線が別に4車線設けられているので、合計すると、42車線あることとなります、4号仙台バイパスは白石方面から大崎・苦竹方面へは、左折1車線、直進3車線、右折3車線の7車線。

日本損害保険協会のHPによると、この交差点における事故が、宮城県のワースト1位ということですが、交差点は大きいから良いではなく、逆に危険性が多くなるということでしょうか。

日本一大きい交差点の事を書いたので、次は、日本一の道路の事を書きます、以前1度書きましたが、日本一標高が高いところに位置する国道は、群馬県と長野県の県境にある「渋峠」を走る国道292号。標高2172メートルです。（抜群のロケーション、電波伝搬実験に行きました）



日本一短い国道は、兵庫県神戸市中央区にある国道174号、神戸港から信号「税関本庁前」間、その距離、何と187.1メートル、徒歩3分で通過できてしまう距離ですが、れっきとした国道、地図に載っていますし、国道標識も建っています。

なぜこれほど短い国道が誕生したのでしょうか？現在の国道2号は大阪方面から来ると、三宮交差点の手前で左折して海側へ向かうルートですが、もともとは曲がらずに三宮交差点を直進していました、つまり神戸港から三宮交差点までが国道174号だったのですが、国道2号との交点が海側に移ったことで、距離が短縮されたと考えられるそうです、もともと国道174号だった区間は現在、兵庫県道30号の一部で、「フラワーロード」と呼ばれています。

現在の国道174号は、距離は短いものの、道幅は上下合わせて11車線にもなる広い通りで、国土交通省はそのウェブサイトで「短いながらも神戸港の物資流通のための産業道路として重要な道路」としています。



日本一交通量の多い国道は、2010年に行われた調査によると、神奈川県横浜市保土ヶ谷区今井町付近の国道16号（保土ヶ谷バイパス）、平日午前7時～午後7時の12時間で、計104,846台のクルマが通過、1分間に約146台のクルマが走った計算になります。



この保土ヶ谷バイパスは、神奈川県横浜市保土ヶ谷区から東京都町田市へ至る国道16号のバイパス道路であり、自動車専用道路で、地域高規格道路に指定されているが、通行料などの徴収は無く、周辺で接続する東名高速道路・国道1号横浜新道・国道16号横浜新道・横浜横須賀道路・首都高速道路・第三京浜道路などと共に、広域的・地域的交通を担う。

次は東西南北のそれぞれの最端にある国道です、最東端は北海道釧路市から根室市に位置する国道44号です、最西端と最南端は同じ国道で、沖縄県石垣市にある国道390号（海上国道）、最北端は、北海道稚内市にある日本最北端の地である宗谷岬周辺を走る国道238号。



東西南北のそれぞれの最端にある国道は、北海道と沖縄だった、では、本州の最端は何処かと調べて見た、本州最東端は、岩手県宮古市重茂（東経142度4分21秒）、本州最西端は、山口県下関市吉母（東経130度52分46秒）、本州最南端は、和歌山県東牟婁郡串本町潮岬（東経135.28.36）、本州最北端は、青森県下北郡大間町大間大間平（東経140.54.45）だった。

次は珍しい「階段国道」です、青森県は津軽半島の最北端にある竜飛岬、ここには国道でありながら車で走ることができないという、歩行者専用道路になっている「階段国道」と呼ばれる区間が存在しているのです、竜飛岬灯台入口とその崖下にある竜飛漁港を結ぶ総延長388.2m、362段の「階段国道」は青森県の観光情報や「階段国道」のある外ヶ浜町の観光情報にもちゃんと記載されており、地元にとっては貴重な観光名所となっているのです、その高低差は実に70mもあるのだ。（この入口付近で、240でCQを連発したが、空振りに終わった）



国道339 ROUTEの下に「階段国道」の文字が見える

竜飛漁港へは、国道281号線から東津軽郡外ヶ浜町で国道339号線に移り、津軽海峡側を自動車で走れる（村道から町道へ、更に国道へと格上げされた）、竜飛漁港から階段を登れば、また車道だ、日本海側を走って、青森県弘前市に至るのだ。

後は、以前別稿で書きましたが、矢張りここは、海上国道の国道350号線、新潟県新潟市中央区から佐渡ヶ島・佐渡市を經由して、新潟県上越市に至る一般国道、我が故郷の道路だ。

「道路法・第3条で道路の種類は、左に掲げるものとする。(道路の種類)二 一般国道」となっていて、第5条に一般国道とは、と、あり、第1項に、「国土を縦断し、横断し、又は循環して、都道府県庁所在地その他政治上、経済上又は文化上特に重要な都市を連絡する道路」と定義されている、何やら、法律の条文は難しい hi

然し、この条文が、佐渡ヶ島内の道路を国道に格上げするのにネックとなったのだ、そこで、天才・田中角栄が考え出したのが、「海上国道」で、新潟市から佐渡市経由で上越市に至る、国道350号線が誕生し、目出度く佐渡ヶ島内を走る道路が国道になったのだ。



350号線起点（新潟市中央区）



佐渡汽船内の案内板



洋上の国道350号（新潟西港付近…佐渡汽船船内より）  
海上区間：111.6 km（総延長：163.2 km）

